

**大学病院勤務医の  
キャリアデベロップメントに対する  
意識と実態調査**

**全国医学部長病院長会議**

**男女共同参画推進委員会**

# 背景

- 近年、女性の社会進出に伴い医師における女性の割合も上昇し、現在、**医学部生の約3分の1が女性**となっている(厚生労働省、2015)
- しかし医学部において女性が過半数を占める米国においても、職掌に関して、**男女間で格差が存在**すること、女性が男性よりも**教授職に就く確率がかなり低い**ことが示唆されている (Jena et al. JAMA2015)

# 目 的

医学・医療の急速な発展と、医療ニーズの増大がみられる現在、教育・研究・診療に携わる大学病院勤務医の**キャリア意識とそれを支えているものを**調査し、現状の内的な重要度や満足度を把握する。それにより、性別に関わらず働きやすいお互いの心理的支援及び必要な外的構造を探ることを目的とする。



# 大学病院勤務医とは

- ・ 医師養成に必要な施設として設置され医学部付属の病院に勤務する医師たち
- ・ 高度な医療の提供、高度な医療技術の開発とともに実践にあたる「特定機能病院」に勤務する医師

教育	卒前の医学生の臨床教育と卒後の初期・専門研修を行う
研究	診断・治療法の開発、難治性疾患の研究等を行う
診療	高度医療の提供、地域の中核的な高度医療機関

# 調査の手順

## 【定性的調査】

① 半構造化面接

② 因子抽出調査

③ 予備調査票作成

## 【定量的調査】

④ 予備調査実施

⑥ フィールド調査票作成

⑦ フィールド調査実施

⑨ 本調査票完成

⑤ 統計解析処理実施

⑧ 統計解析処理実施

# フィールド調査票について

- ・ 予備調査のデータに対してクラスター分析を実施した
- ・ それらをまとめ**フィールド調査票（25項目）**を作成した

## フィールド調査票の構造（4つの領域と下位項目の内容）

### 1. 研究活動の支援

- ・ 最新の知識獲得
- ・ 研究活動の支援
- ・ 医療技術の向上

### 2. 内的な満足

- ・ 教育をする機会
- ・ 専門医の資格習得
- ・ 仕事のやりがい
- ・ 自己成長の機会

### 3. 労働条件や環境

- ・ 自由な議論
- ・ 職場の雰囲気
- ・ 職場での良好な人間関係
- ・ 適切な評価
- ・ 適切な勤務時間
- ・ 適切な業務量
- ・ 適切な報酬

### 4. 家族の支援

- ・ 育児の重要性
- ・ 家族に対する満足
- ・ 家族の仕事への理解
- ・ 職場の支援体制
- ・ 職場の理解

# WHOQOL-26について

## - WHO Quality of Life 26 -

<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* <b>主観的幸福感、生活の質</b>を測定する</li> <li>* 4領域（<b>身体的、心理的、社会的関係、環境</b>）と QOL全体の項目から構成されている</li> </ul>
<b>形式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 質問項目数：26問</li> <li>* 過去2週間に「どのように感じたか」、「どのくらい満足したか」、あるいは「過去2週間にどのくらいの頻度で経験したか」を、「まったくない」から「非常に」などの5段階で回答する</li> </ul>

次の質問は、過去2週間にあなたが、どのくらい経験したか、あるいはできたかについてお聞きするものです。

	まったく ない	少しだけ	多少は	かなり	非常に
Q76 体の痛みや不快感のせいで、しなければならぬことがどのくらい制限されていますか	1	2	3	4	5
Q77 毎日の生活の中で治療（医療）がどのくらい必要ですか	1	2	3	4	5
Q78 毎日の生活をどのくらい楽しく過ごしていますか	1	2	3	4	5
Q79 自分の生活をどのくらい意味のあるものと感じていますか	1	2	3	4	5
Q80 物事にどのくらい集中することができますか	1	2	3	4	5
Q81 毎日の生活はどのくらい安全ですか	1	2	3	4	5

# フィールド調査の概要

- フィールド調査票25項目とWHOQOL-26の26項目の51項目を一冊の調査票とし、各大学100部ずつ全国80校の医学部に郵送・各機関担当者回収方式で実施した。
- 実施期間：平成28年6月末～7月末
- 解析対象数：4573（57.2%）



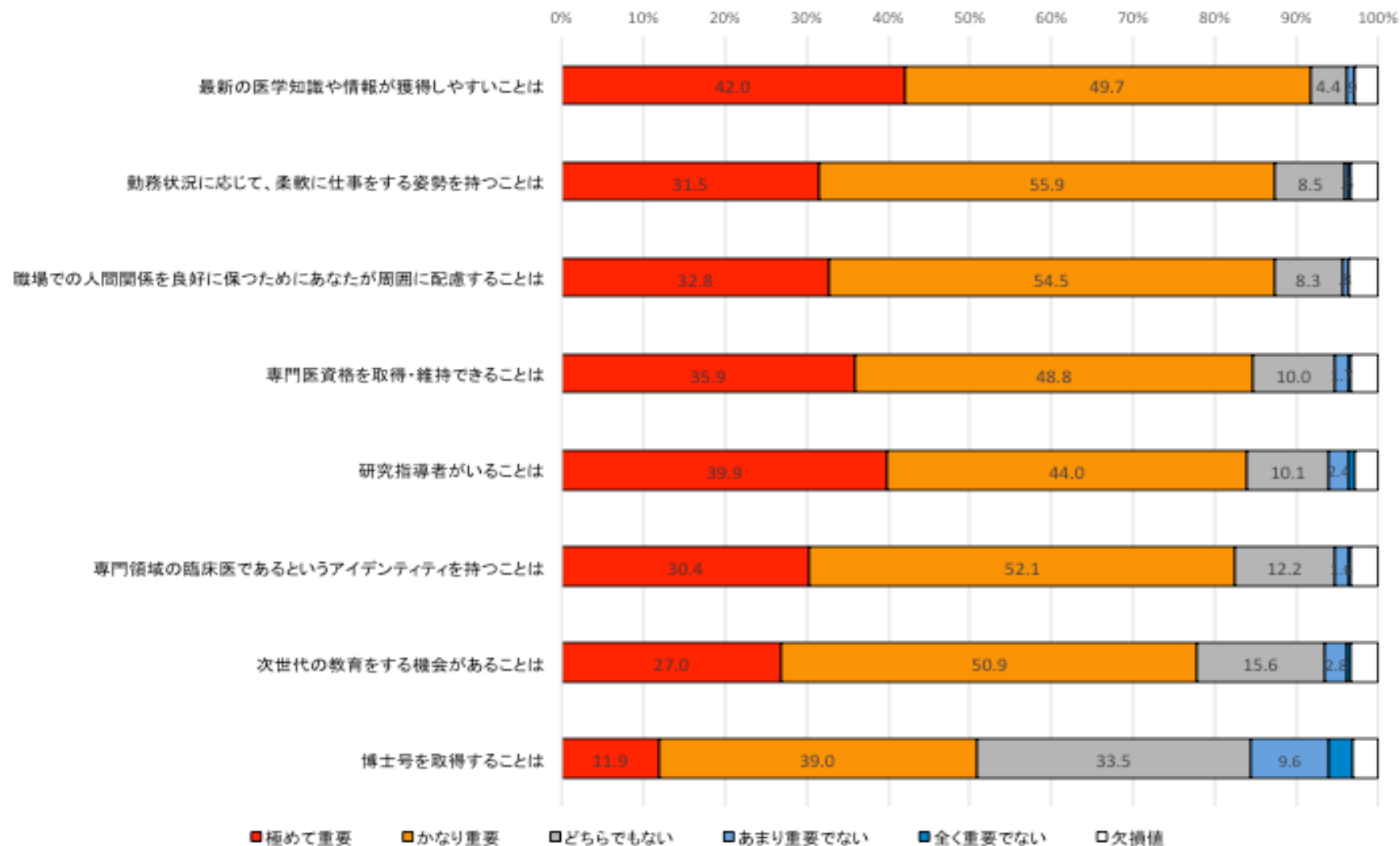
# 大学病院勤務医の属性

$n=4,573$

	<i>n</i>	%	
性別	女性	1959	42.8%
	男性	2408	52.7%
	無回答	206	4.5%
年齢	20歳～29歳	558	12.2%
	30歳～39歳	2097	45.9%
	40歳～49歳	1359	29.7%
	50歳～59歳	337	7.4%
	60歳以上	58	1.3%
	無回答	164	3.6%
所属	国立大学付属病院	2399	52.5%
	公立大学付属病院	357	7.8%
	私立大学付属病院	1648	36.0%
	無回答	169	3.7%
職位	研修医(前期・後期)	573	12.5%
	大学院生	540	11.8%
	助教	1649	36.1%
	講師/准教授/教授	1063	23.2%
	非常勤医師/その他	544	11.9%
	無効値	35	0.8%
	無回答	169	3.7%

# 意識調査（全体の結果）

# 研究、臨床、教育、職場に対する認識（重要度）



# まとめ1 認識

## 高いモチベーション

- ・最新の医学知識や情報が入手しやすい、研究指導者がいることが重要とするのはいずれも80%以上

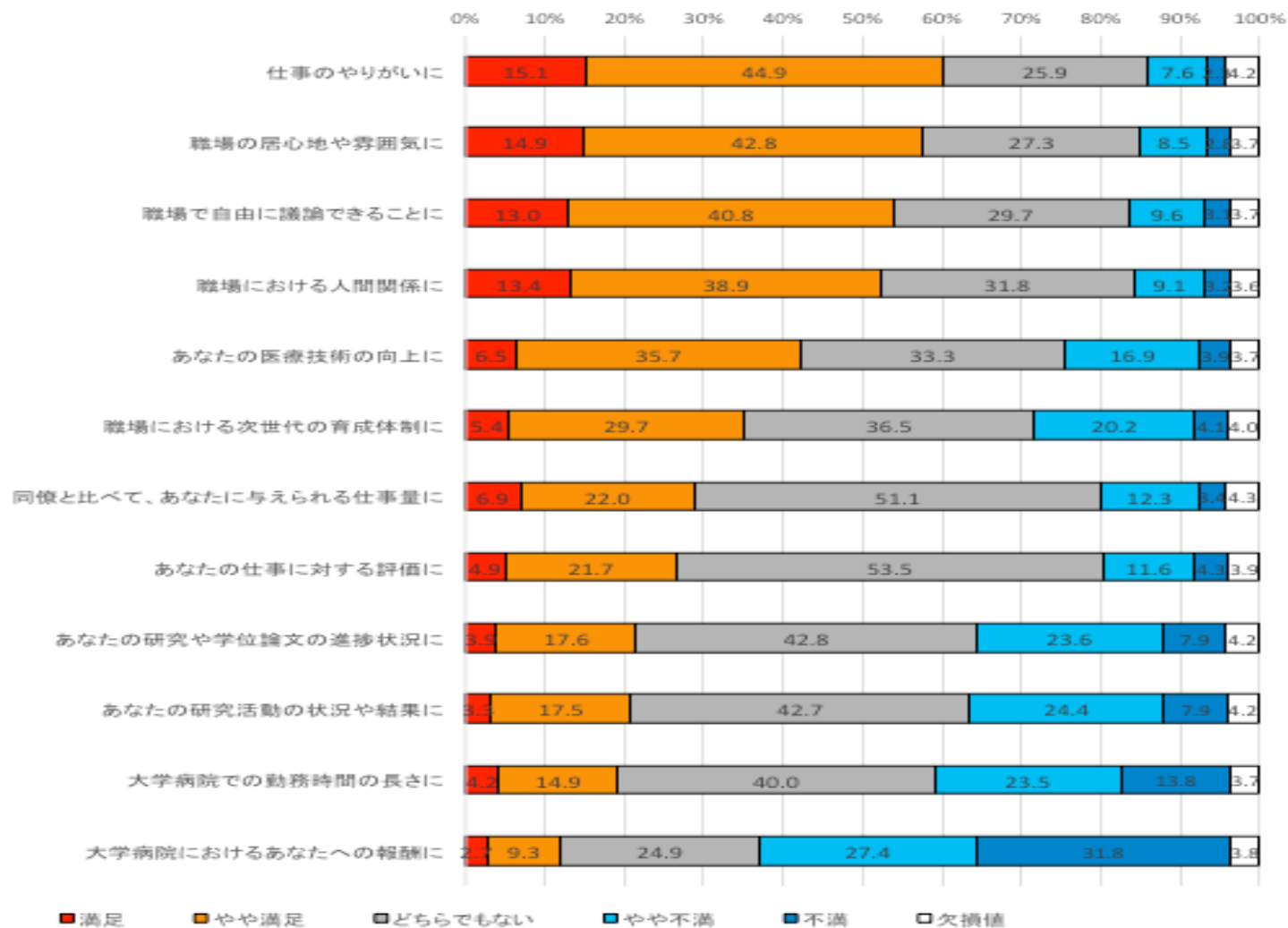
## 大学病院の医師としてのプライド

- ・次世代の教育をする機会を持つことが重要とするのは78%
- ・専門領域の医師というアイデンティティの重要性は82%

## 専門医が学位より重要視されている

- ・博士号を取ることが重要と考えているのは51%に過ぎない。
- ・専門医を取得・維持するのが重要と考えているのは84%

# 研究、臨床、教育、職場に対する認識（満足度）



## まとめ2 満足度

**仕事のやりがいは60%が満足**

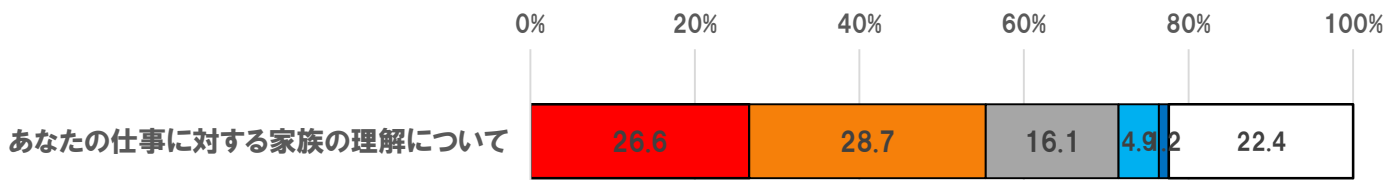
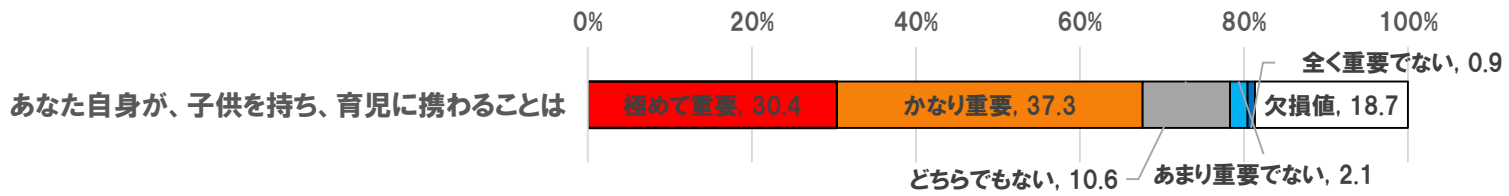
### **職場環境**

**雰囲気や人間関係は満足が50%台  
(どちらでもないを合わせると80%以上)**

### **満足度が25%以下の項目**

- 報酬
- 仕事に対する評価
- 勤務時間の長さ
- 研究活動の状況

# 子育てや仕事への理解に対する意識



■ 満足   
 ■ やや満足   
 ■ どちらでもない   
 ■ やや不満   
 ■ 不満   
 □ 欠損値

## まとめ3 育児や仕事に対する周囲の理解

### 仕事に対する家族の理解

- ・家族の理解に満足 54%
- ・育児分担に満足 46%

### 職場の理解

- ・満足は35%
- ・満足にどちらでもないを合わせると66%



# WHO QOL26 の低い項目・高い項目 比較

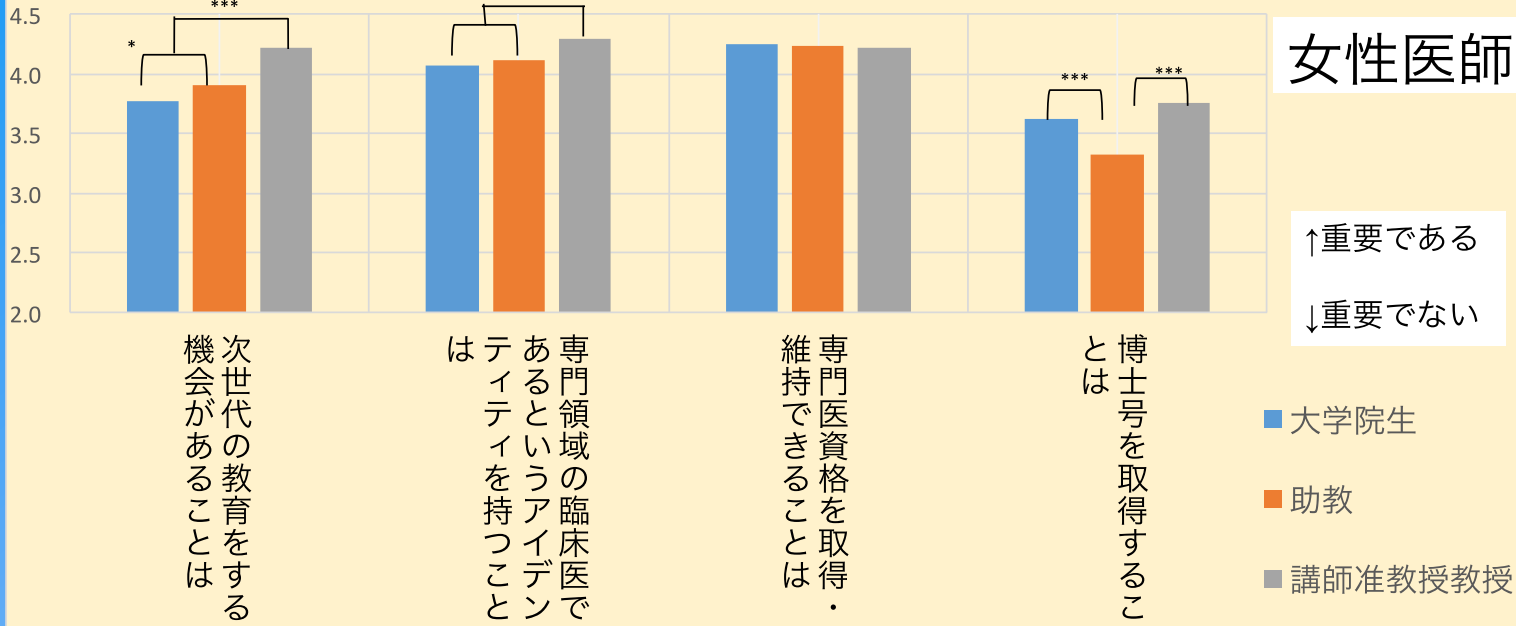
	Q3. 身体の 痛みによる 制限	Q4. 治療が 必要	Q14. 余暇を 楽しむ ゆとり	Q15. 外出の ゆとり	Q16. 満足な 睡眠	Q18. 自分の 仕事への 満足	医師 平均	全国 平均
男性	4.19	4.32	2.54	2.66	2.89	2.95	3.21	3.10
女性	4.12	4.30	2.75	2.80	2.84	2.79	3.22	3.19
合計	4.16	4.31	2.63	2.72	2.82	2.88	3.22	3.14

# 意識調査（立場による比較）

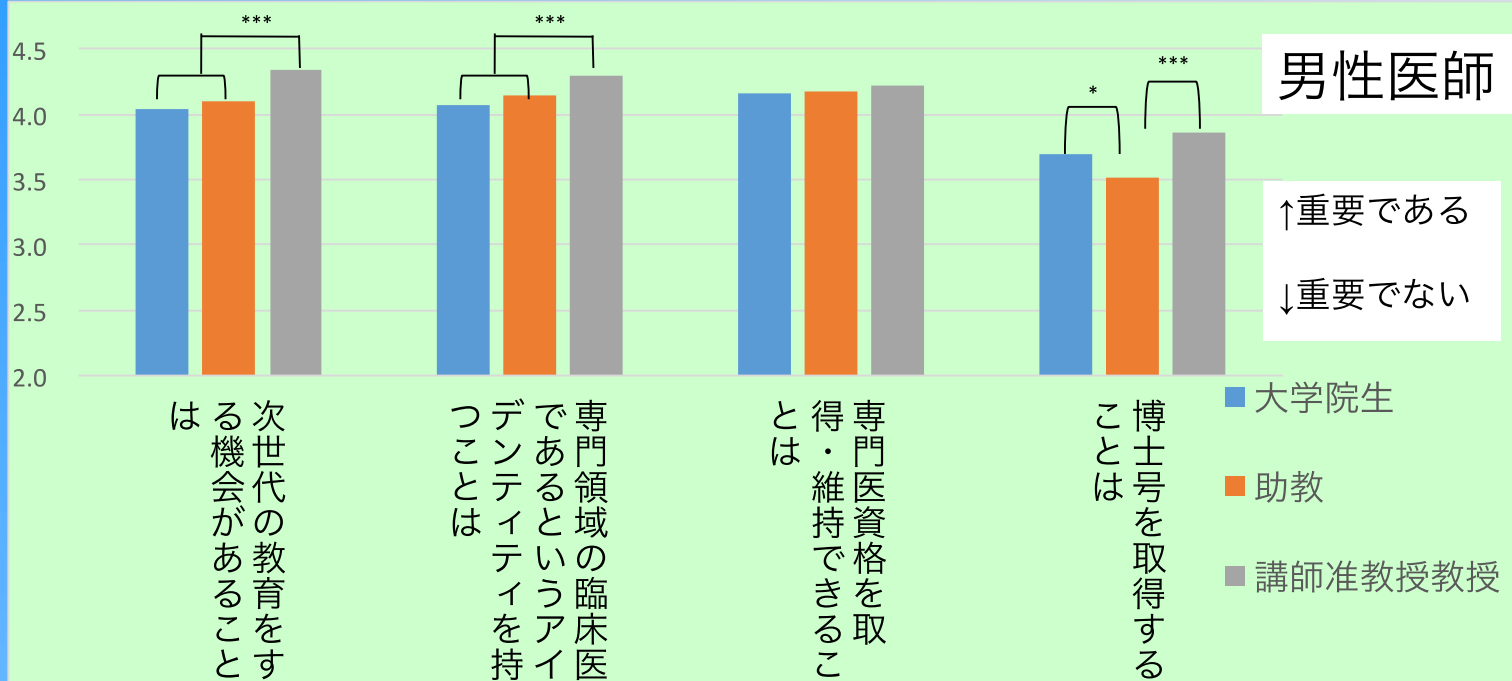
# 意識調査の分析対象者の属性

		大学院生	助教	講師/ 准教授/ 教授	合計
女性	20代	27	20	1	48
	30代	239	444	13	696
	40代	12	233	126	371
	50代	0	19	48	67
	60歳以上	0	1	7	8
			278	717	195
男性	20代	32	7	0	39
	30代	214	507	58	779
	40代	8	384	490	882
	50代	0	12	232	244
	60歳以上	0	1	48	49
			254	911	828

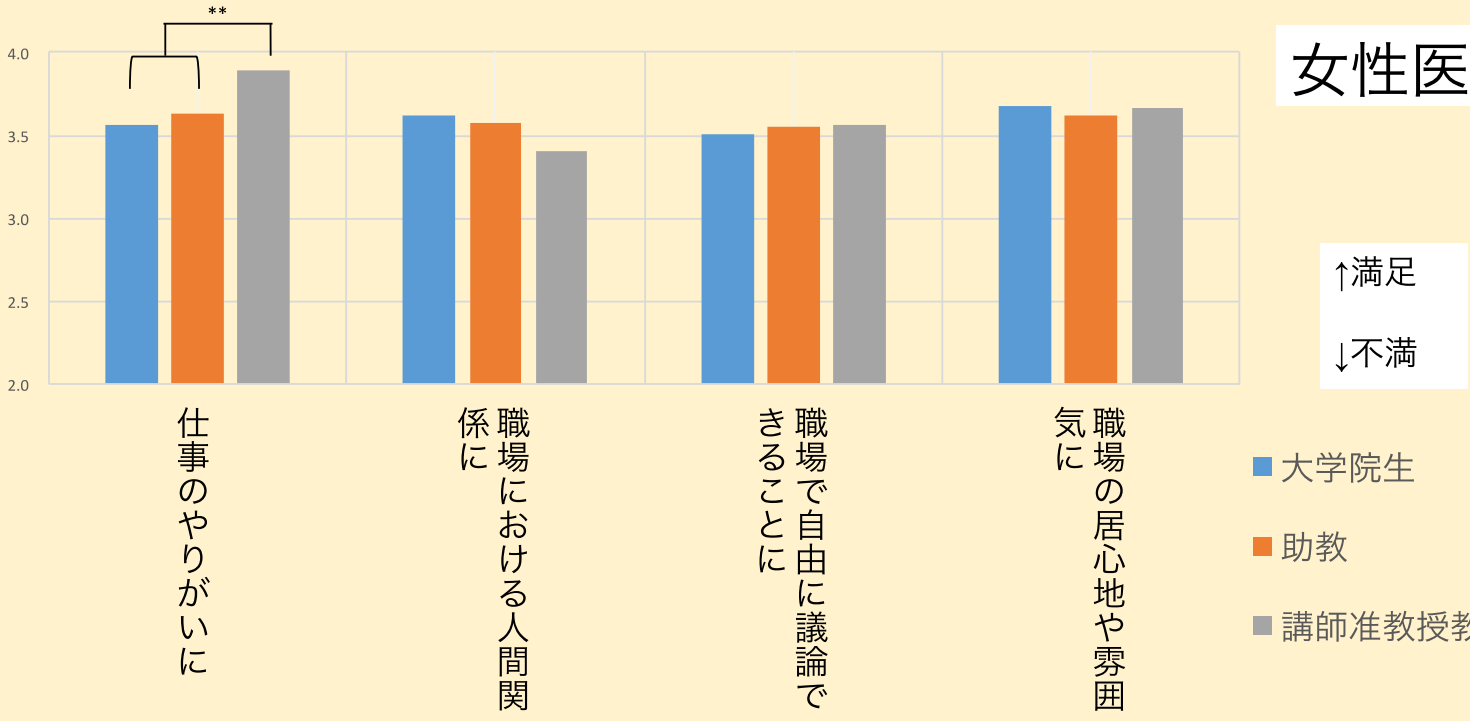
## 女性医師



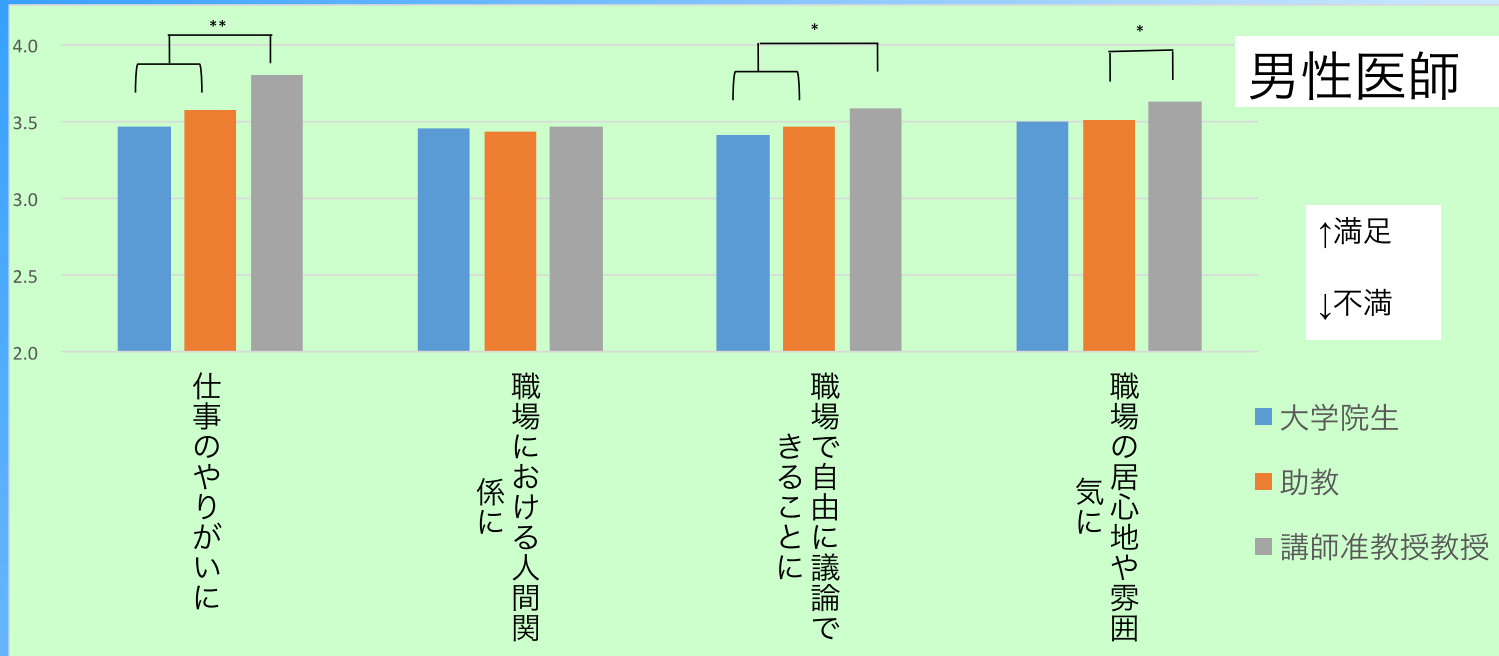
## 男性医師



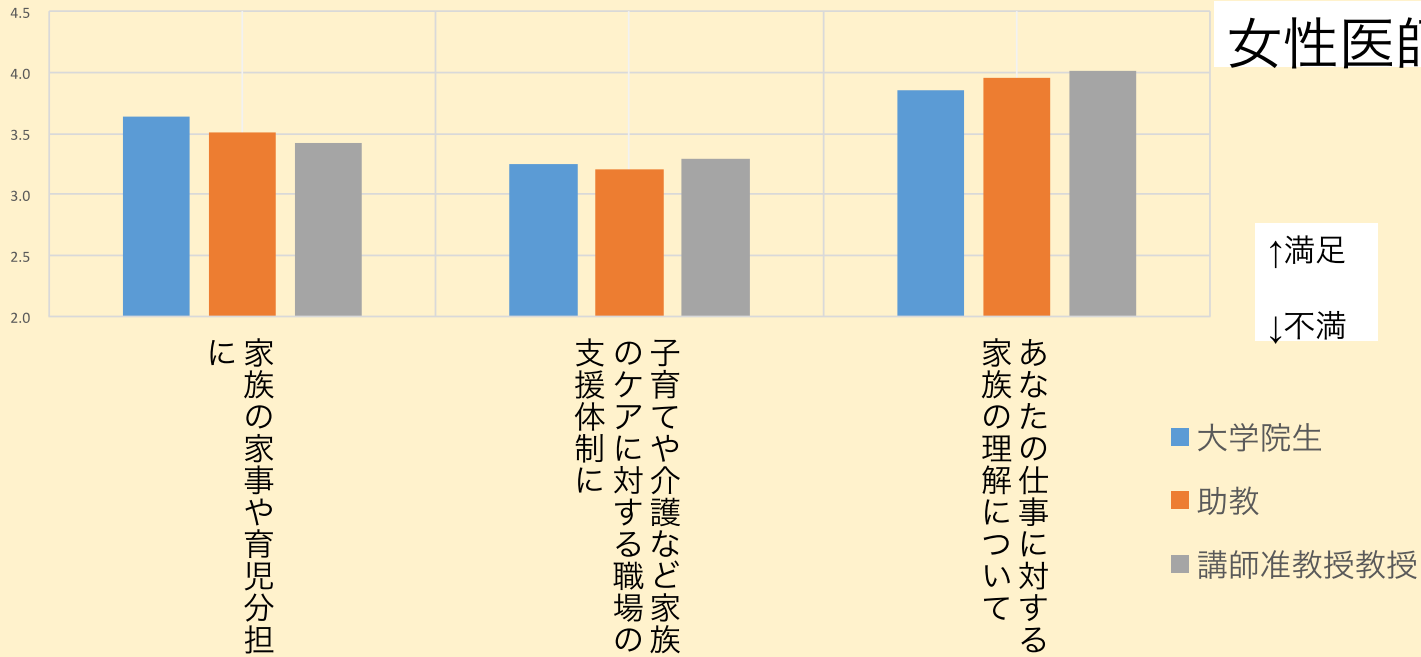
# 女性医師



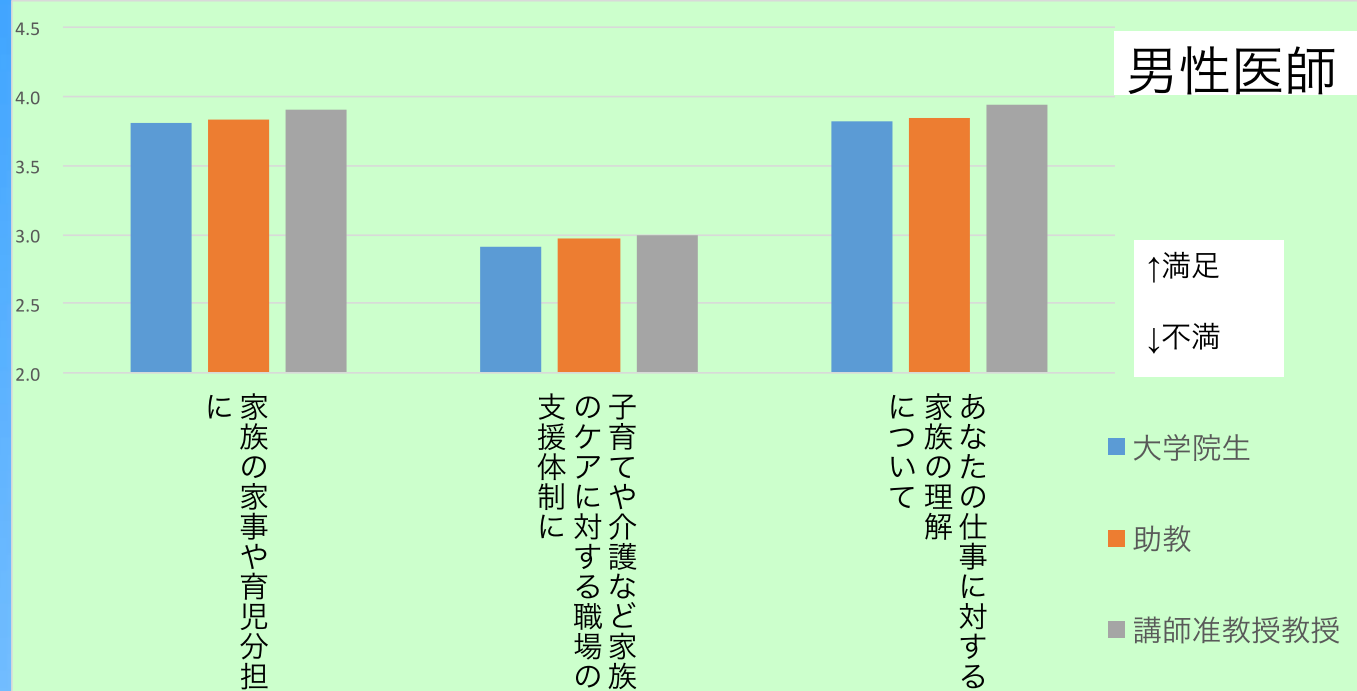
# 男性医師



## 女性医師



## 男性医師



## まとめ4 職位別・男女別結果

- ・男女間で傾向に明らかな差は見られなかった。
- ・仕事のやりがいの得点は講師以上で高かった。
- ・博士号の取得の重要性は助教で低かった。
- ・教育に携わることの重要性は職位が上がるほど高かった。
- ・今後様々な切り口で検討していく必要がある。  
家庭環境(既婚か独身か、配偶者の職業  
子どもの数、子どもの年齢など)、診療科による違いなど



東邦の山岳診療所のある西穂高の風景

**ご協力くださった関係各位および東邦大学医学部・研究支援調査グループに心より御礼申し上げます**